

【From Kobe 2017年11月 秋便り 街も野山も紅葉が彩る秋 2017.11.15.



- 1. 11月 秋便り 街も野山も紅葉が彩る秋
- 2. 神戸製鋼のトラブルに思いをはせつつ 世界流と日本流
技術立国日本がどんどん取り残されてゆく 国際規格 ISO をどうとらえるのか
- 3. 「今に生きる縄文」 そんな思いで出会った久しぶりの縄文のビーナス・女神たちに

■ 1. 11月 秋便り 街も野山も紅葉が彩る秋

10月になっても不順な天候が続く中、二つの台風が神戸を通過。特に台風21号は最大瞬間風速 45.9m/s の突風が吹き荒れました。今までなかったのですが、我が家もぼろ家で、突風が吹くたびに揺れ動きました。幸い時間が短かったこともあり、たいしたことなかったのですが、ゴーゴ-と音もすごく、「経験したことのない」の表現はこんなことか・・・といい経験。地球温暖化の危険をまざまざと感じた一日でした。

さらにもう一つ台風が通過して、月が替わると一気に冷たい風が吹き始め、町の街路樹も真っ赤になり、政府は景気は絶好調と言うが、問題を起こす大企業 変な事件が矢継ぎ早に起こり、政治は訳が分からぬ混乱。世界も問題山積。それに気象以上が追い打ちをかける。良くも悪くも本当に大変な2017年秋に。

11月更新をパスするつもりでしたが、やっぱり この激動の2017秋を記録しておかねばならぬと思いなおして、更新へ。なかなかうまく進まず、結局11月15日更新に。

どこかで またいつか みなおすかもしれないなあ・・・と自分のための記録です。



横尾尾山の北山腹の丘一面を真っ白にして咲く兵庫県の県花「野路菊」の花 2017.11.15.

11月上旬街や野山が真っ赤に彩られる中、須磨アルプス横尾尾山の北山腹の丘一面を真っ白にして兵庫の県花「野路菊」の花が咲きました。一本の茎から四方に手を伸ばして、白い小さな花を沢山つけ、栽培地一面を真っ白にする。兵庫県六甲山系が自生地東限で、東日本にはない。

山端や川縁や里でそっと咲いて野菊とも見間違われることも多いが、「真実」の花言葉を持つ地味な花。

群生して咲き誇ると純白の帯になり、豪華や純白の強さを感じる人も多く、兵庫ではかつてごく普通にみら

れたこともあって、兵庫県の花となり、「のじぎく賞」とこの花を冠した賞もある。

今年は特に花が多く一面真っ白で素晴らしい。

この秋 いろいろ思い浮かぶこと多く、横尾道のじぎくの丘のてっぺんに登り、周囲を見渡しながらか、
小1時間ほど いろいろ思いをめぐらしました。



横尾尾山の北山腹の丘一面を真っ白にして咲く兵庫県の花「野路菊」の花 2017.11.15

色々課題も多い毎日ですが、家族・仲間もいる 変わりゆく時代に しっかり眼を開き、

ただひたすら 前向いて 我が道を行く God be With Us !!

街も野山も紅葉が彩る真っ青な秋の空 心地よい風をいっぱい吸い込んで

いつもの景色も違って見える

心身共に生き返れと

2017.11.15. 深まる秋神戸で Mutsu Nakanishi

今一度 平和の考え方を見直そう

先月にも若者たちへ応援メッセージを送りましたが、再度 若者たちが日本の突破口を開け!! と
10月に衆議院総選挙があり、自民党の大勝利となりました。

「平和憲法を守る」政党が共産党だけの極小勢力だけになってしまうと心配しましたが、立憲民主党が名乗りを
上げて、まだ小さいが何とかほっと一息です。

「核の傘 武器なくして平和は守れない」と金科玉条の言葉に 一般人はみんな言葉を失ってしまっている。
でも 武器・核の傘の中で平和が守れるのだろうか?

アメリカは日本を守ってくれるだろうか・・・一番の気がかりは 平和そして日本活性化の道が見えぬこと。

核の脅威をこんなに身近に感じるのも初めて。世界がどんどん日本を追い抜いてゆく

はっと気が付けば 知恵なしの独りぼっか・・・・・・今一度 平和の考え方を見直そう。

先月も若者たちへの応援メッセージを送りましたが、再度「若者たちが日本の突破口を開け!! 」と

諸国の援助を受けてきたとはいえ、「平和憲法」こそ日本の繁栄の原動力であると疑う余地はない。

今 海外から日本へ訪れ、街を歩く BRICS・東南アジア諸国・ヨーロッパそしてアフリカの人たちの顔・顔・顔。

そして、抗争が続く国の人々の顔もまた、毎日 TV に映し出される。武器で平和は勝ち取れるのだろうか・・・・・・

抗争対立を乗り越えて 平和が続く中でこそ 繁栄の道が見えてきたと映る。

今度の選挙にも新しい動きがある。

自民党の大勝利とはいえ、今の政治姿勢のおかしさに気が付き始めた選挙だった。

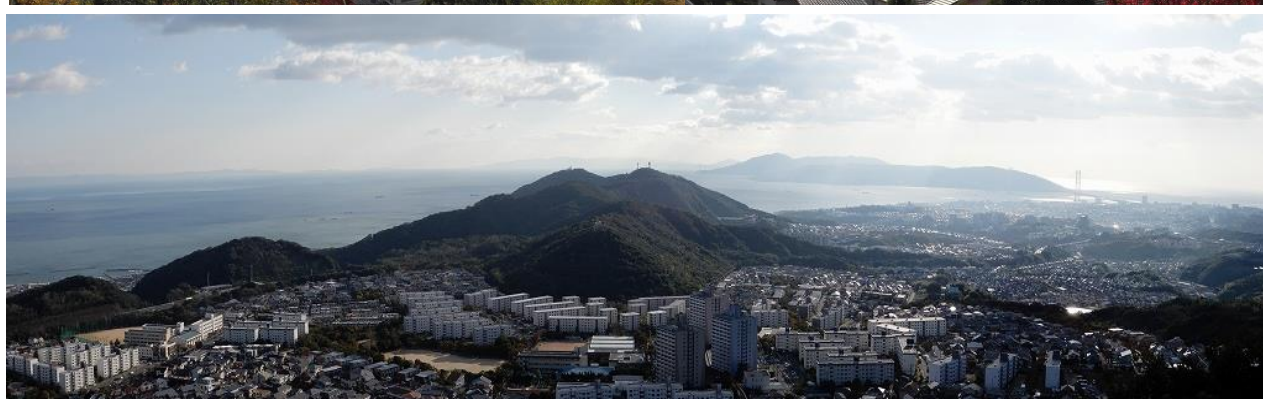
比例区には多くの人が平和憲法を掲げた立憲民主党に投票し、スマホ・SNS の世界でも若者たちの立憲民主党
への応援が大きなひろがりを見せた。

トランプ大統領の日本そして世界歴訪の中で、映し出される日本政府の異常とも見える対応のぎこちなさと孤立
が目立った。日本が相手にされなくなりつつある。 ふっとそんな疑問が頭をよぎる。

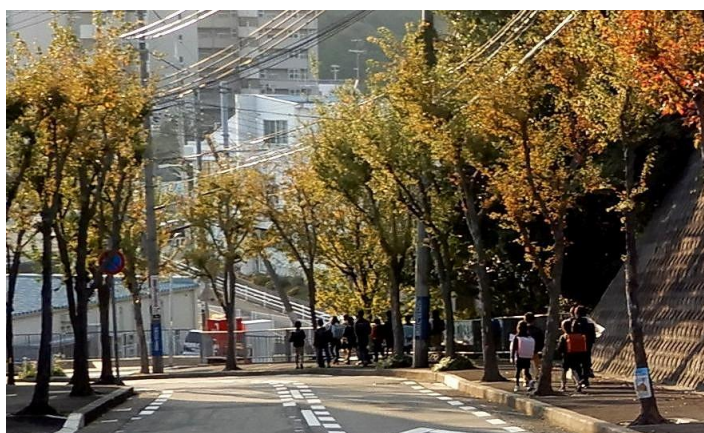
「テレビのバカ騒ぎ・スマホいじって、心地よい言葉・仲間さがして 刹那に生きる。

目先を変えればなんとでもなる。 さおさせば 仲間はずれに 等々 」

そんな空気を打ち払え。そして 日本の突破口を開け!! と・・・・・・エールを送る



「秋の夕日に照る山紅葉 濃いも薄いも数ある中に 松をいろどる楓や蔦は 山の麓の裾模様」
秋は小学唱歌がよく似合う。



紅葉した街中を子供たちが元気に駆けてゆく 2017.11.9 妙法寺&名谷



神戸布引谷 布引貯水池周辺 2017.11.2.

■ 2. 神戸製鋼のトラブルに思いをはせつつ 世界流と日本流

技術立国日本がどんどん取り残されてゆく 国際規格 ISO をどうとらえるのか

インターネットを眺めていて、こんな記事が目に入った。

ドイツに行った日本人が「毎日イモでつらい」と言い、

日本在住のドイツ人は「毎日違う料理で疲れる」という。 日独の食文化は真逆？

ドイツに行った友人が「毎日ジャガイモとソーセージとザワークラウトとビールしかなくつまらなかった」と話していたとの SNS 投稿が紹介されていた。しかし、このユーザーが、毎日鮭弁当を食べている日本在住のドイツ人にその理由を聞いたところ「日本人は毎日違うものを食べていて疲れる」との回答が。

「毎日同じもので育つと違うものにストレスを感じるんだなーって 新しい気付きでした！
ほんまに裏表！」とツイートすると「これが文化の違いというやつか」「多様な食文化にどっぷりと浸り過ぎなのかもしれません」などと共感する声が上がりました。

日独の食文化は実際にこれほど異なるのでしょうか。

大人んサー otonanswer.jp <https://otonanswer.jp/post/8677/> より

読んでいて ふっと今 気になっている神鋼の品質保証偽装 日産の品質検査問題のことに頭が・・・。
グローバル化が大きく展開した高度社会の中で、島国日本は自分たちの尺度が世界の尺度と大きく食い違っていることに気が付かない。

特に 成功体験・経験豊富な中年・高齢者層には このことに気が付かない人が多いのではないかな？。
日本のリーダーたちもこのことに全く気が付いていない人が多く、幾多の問題を起こしていると見える。
すぐに当事者責任を振りかざし、リーダー責任を回避するのも この感覚のずれの悪用かも・・・。
グローバル化の中で、ISO の国際基準が世界の標準になって、JIS 規格もその中に組み込まれている。
高度成長を経て、ここ30年の著しい社会変革の中で、あらゆるところでの余裕代がなくなっており、
それらの変化が強く認識され、そのチェックが国際規格等々にも厳しく連動反映されている。
また 対象も大きく変わり、「かつての経験では・・・」など まったく言えないのである。
今 日本でも滞欧がはかられ、問題などおこらぬシステム・標準のはずなのに。 なぜ・・・

日本では「人それぞれ 多様性を重んじるとともに 新しがり」の気風があふれている。
職場では「日々改善 率先実行」のスローガンが社是・作業現場にあふれ、それがかつての日本の高度成長の支えでもあった。

でもグローバル化の波の中 世界では日本流 短絡的な「日々改善 率先実行」が通用しない。
「Japan as No.1」ではないグローバル化の時代の「日本流」でなければ生き残れないのである。
「グローバル流」と「日本流」を好き勝手に組み合わせることが一番危ないと肝に命ぜねば・・・。
「グローバル流」との調和・接続検討なしでのかつての成功体験・長い経験則が一番危ないのである。

なにを戯言・・・といわれるかもしれないが、今や建築物や食べ物 家庭用品等々 身の回りはこの30年で大きく変化し、大量生産・低価格・効率・巨大化・高速化の中での余裕代のない極限設計とそれに携わる工場の変化。それを30年前の感覚・規格 そして「日本流」でやるとなるとやっぱり空恐ろしい。
それが、まだ企業風土の中に根強く残っているのが、今回の病根かもしれない。

かつて アメリカの某企業の工場新ライン査察を受けたときに「Copy Exactly!!」の言葉とともに、
「今求めている物の品質生産にあった安定ライン」である現行ラインと全く同じ操業をかたくなに構築し、
行うことそれが「Copy Exactly!!」と強く指示されたことがある。

その根底には「新しいものの不安定さよりも安定」がある。グローバル化の中、風土の異なる世界で、十分な検証・合意なしでの変更適用が呼び起こす「不安定を排除すること」を強く教えられた。
いま持って「日本流」を押し通すならば、グローバルをやめ、日本にとどまるべきなのだろう。

また「規格」の規定しか見ない日本の即物対応。でも「規格」には「理念から説き起こした全体を見通す規定」があり、世界はこれを大事にする。良し悪しの議論があるにしろ、即効マニュアルのレクチャで事が運ぶ最近の日本の風潮に警鐘を鳴らす出来事である。

「気風・風土」を変えるには トカゲのしっぽ切り・現場当事者責任の押し付けではなく、トップそのものが責任行動を取らねば…。

ISO の国際規格には明確にこの事が規定されている。にもかかわらず、ビジネス上必要で ISO 国際規格を取得したものの、それを仕舞い込んでいる企業が日本ではいかに多いことか……………

年寄りの戯言なのか?と気になって、手元にある資料を引っ張り出し、ISO 国際規格に規定されている理念・トップマネージメントの責任などの項をチェックすると強く心に響く内容の言葉が明記されている。内容を簡潔にまとめたインターネットの文 下記の通り。

ISO では、経営者（トップマネージメント）のリーダーシップが非常に重視されている。組織の運営管理をうまく機能させるためには、達成すべき目的（品質・顧客満足）や、進むべき方向性をはっきりさせて、必要な資源を投入することが不可欠だと言えるから。経営管理リーダーは、ISO をどのような風に活用したいのかという明確なビジョンを描き、自社の品質マネジメントシステムにおいて、リーダーシップを発揮していることを実証することが求められている。

リーダーの気風はそのまま社風となるので、その理念の「成文化」が必要で、「戦略」「戦術」「戦闘」の3つのステップで、組織全体に周知させる遂行責任がある。

また、品質マネジメントシステムの有効性に対する説明責任が求められる

●『リーダーシップ』をマネジメントシステムに組み込むには（例）

リーダーの描いた『理念』は『経営計画書』で成文化し、経営者の姿勢を、組織の内部、外部に知らせる。

単なる『スローガン』で終わらない『品質方針』、『環境目標』を作る。

抽象的な方針や目標を設定しないよう、「会社が何をしたいのか」を明確にする。

現場の実情と経営バランスを一致させる。組織の方向性はリーダーがはっきり示すこと。

改善方法がわかっている、費用等の関係で実現が難しいときは、『お金がないのでできない』ではなく、現在とりうる最善の策を検討すること。

『ベスト』でなくて常に『ベター』を目指す姿勢が大切。

上記されているごとく、「知らなかった」「勝手に一部門が動いた」では済まないことが、世界では トップマネージメントの常識。日常の活動がすべてクリアーで、有機的に連動して働いていることの確認もまた常識なのである。なにを面倒くさい・・ということになるのですが、グローバルな高度情報化社会の中での世界標準 それをしまい込んでの解決の糸口はつかめない。でも日本では……

技術立国日本が過去のものとなり、世界企業を目指した 100 年企業が次々と立ち行かなくなったり、トラブルなどの課題を抱え、政治を見れば 全く数だけが頼りの無茶苦茶な傍若無人の仲間政治。これが 日本の進んで行く道なのか…………一度 立ち止まって 軌道修正しないと。

また、かつて仕事をした鉄鋼企業の一員神鋼 そして日産が品質偽装のトラブルで 存続の矢面に立たされている。他人事ではないと かつての現場に思いをはせる。

わたしも鉄鋼マン。 かつての製造現場での同じような局面がいくつも頭を駆け巡る。

世界と日本 内向きでは解決できぬ風土問題。世界へ飛躍できる対応を。

今一度 新しい企業風土構築に邁進して、再度世界への飛躍を期待して がんばれ!! と。

2017.11.1. From Kobe 世界流と日本流に思いをはせつつ

Mutsu Nakanishi

■ 3 「今に生きる縄文」そんな思いで 久しぶりに縄文のビーナス・女神たちに出会ってきました
京都国立博物館2017秋特別展「国宝展」 2017.10.27. 夕

京都国立博物館 2017 秋の特別展「国宝展」で縄文のビーナスや女神の土偶がそろって展示されていると聞く。

「今年はなおさら。是非とも会いたいなあ」と。国宝が勢ぞろいする特別展大勢の人出を見越して、夜

8時まで開館されている10月27日金曜日の夕方に出かけました。国宝勢ぞろいで、力が入っているようですが、今回の目的は縄文のビーナス・縄文の女神 そして十日町の火焰土器。 出会えるだけで、満足とせねばと。



「日本人の心の故郷 縄文」 人類が絶滅の危機を乗り越えてこれたエンジンは「相手を思う心」にあった。
そんな証が日本の縄文。世界に類例がない約1万年の長きにわたって途絶えることなく永続した日本の縄文
厳しい環境の中であって そんな平和な暮らしの象徴が 縄文のビーナス・縄文の女神
教科書から縄文が消え、縄文を知らぬ人が多い。 縄文の世界遺産登録にはなかなか理解が得られない。
でも 日本が世界に誇れる一番が縄文。世界の平和が一番脅かされている時代の今
こんな時代だからこそ「日本人の心の故郷 縄文」に眼を向けてほしいと。

◆【和鉄の道】 日本人のふるさと「縄文」 縄文の心を映すストーンサークルを訪ねる & 縄文掲載リスト

◎ <http://www.infokkna.com/ironroad/2015htm/iron11/jyomonslide.htm>

◎ <http://www.infokkna.com/ironroad/2014htm/2014mutsu/fkobe1406B.pdf>

10月に衆議院総選挙があり、自民党の大勝利となりました。

「積極的平和主義」なるわけのわからぬ言葉を編み出し、それこそ横暴極まりない数の力で、「憲法九条改正」「北朝鮮の危機 アメリカの前に核の傘なくして日本の平和は守れない」などと煽り立て、押し切られてしまった。でも「平和憲法を守る」政党が共産党だけの極小勢力だけになってしまうと心配しましたが、立憲民主党が名乗りを上げて、まだ小さいが何とかほっと一息。

「武器なくして 平和は守れない」「戦わなければ・・・・・・」 とそれこそ金科玉条の言葉に一般人はみんな言葉を失ってしまっている。

「時代にそぐわぬ平和憲法で 何ができる 国際社会にもみはなされる」

「陸上に迎撃型のミサイル装備を配置して 北朝鮮のミサイルに備える」

「アメリカから最新の武器・装備を買って、備えをさらに日米同盟をさらに強化する。」

と追い打ちをかけて、政府は勝ち誇る。でも これ本当だろうか……

ぼそぼそと負け惜しみがごとく

「アメリカは日本を守ってくれると みんな信じるか??? そもそも 沖縄の現実は何なのだ」

「高速で成層圏を飛ぶミサイル どうやって撃ち落とすのだろうか???」

技術屋ならみんな撃ち落とせないこと知っている。 政治家はなんのためにこんなことを??

また、破たんした財政の中で その膨大な軍事費 誰が出すのだろうか?

でも 日本では反対の声がかき消されて力なし。対抗する言葉を持ちえてないのです。

今こそ 平和憲法を守る勢力を強めねば……・

諸国の援助を受けてきたとはいえ、「平和憲法」こそが 日本の繁栄をもたらした原動力であることには疑う余地はない。

今 海外から日本へ訪れ、街を歩く BRICS・東南アジア諸国・ヨーロッパそしてアフリカの人たちの顔・顔・顔。その笑顔は抗争対立を乗り越えて平和が続く中でこそ得られた繁栄の道の顔と映る。

日本には世界に類例のない1万年にわたる「縄文」の永續社会があり、そのエンジンは「相手を思いやり心」にあったことは疑う余地がない。 また、現世人が幾多の過酷な環境・困難を乗り越えることができたのは人それぞれが共有する「思いやる心」にあることがわかってきている。

「縄文を見よ 戦のない平和な暮らし 平和憲法こそが 安定した平和な世界の礎だ」と訴えよう。

もっとある。相手もわからぬ無表情状態の認知症老人が、お互いふれあい相手を思う行動介護で、認知症が著しく改善する症例の報告が世界各地で相次いでいる。

「お互い親しみをもってふれあい見つめあう行動介護」この行動介護が認知症・成人病の大きな改善をもたらし、治癒の希望も出てきていると聞く。

科学的な検証取組が「人には本能的に相手の表情を認識する能力があり、それが呼び起こされると脳の働きが順次回復してゆく」ことを明らかにし、病や社会課題の解決の道に希望を与えているという。

「お互い親しみをもってふれあい見つめあう行動」 これこそ「縄文の心」。

「縄文が今に生きている 」と知りました。

まもなく AI・コンピューターもまた 平和な暮らし・平和憲法の圧倒的効能を間違いなく証明するだろう

殺伐としたおかしい社会の今 さらに激変する環境が追い打ちをかけ、身勝手な独断だけでは生き延びられぬ時代。 自信をもって 平和憲法 平和な日本の社会をとりもとそうと・・・・・・、縄文のビーナス・女神たちにそんな思いを重ねています。

2017.10.27. 縄文のビーナスを ゆったり見終わて

夕暮れの京都の街を歩きつつ Mutsu Nakanishi